

展示No.	提案名	区分	分類			
岩手県 15	Car to Car リサイクルを目指す 東北域内での廃棄プラスチック回収システム	その他	CN			
		工法	新規性			
			その他(業界最先端)			
提案の狙い		適用可能な製品/分野				
<input checked="" type="checkbox"/> 原価低減 <input type="checkbox"/> 質量低減 <input type="checkbox"/> 生産(作業)性向上 <input type="checkbox"/> 品質/性能向上 <input checked="" type="checkbox"/> 安全/環境対策 <input type="checkbox"/> その他 ()		自動車部品、内装部材、電装品、環境負荷軽減				
従来		新技術・新工法				
【東北での自動車リサイクルの課題】 ●自動車製造の廃材、特にプラスチックを破砕対応できる業者が少なく、多くが県外まで未破砕のまま輸送している。 ⇒輸送コスト大、環境負荷大 ●域内の処理は、埋立て等、廃棄されるケースが多い。 ⇒希少資源の海外流出の可能性大 【自動車リサイクルを取り巻く環境変化】 ●サプライチェーン排出量(SCOPE3)への対応 ●再生プラスチック利用20%への対応		【東北での廃材の破砕処理・資源化の実現】 ⇒トラック50台の自社運搬体制により、自動車製造の廃材をミルクライン方式で回収し、ニーズに応じて破砕・分離。 ⇒プラスチックだけではなく、金属付きの部品なども、既存技術と設備で素材分離と国内循環ルートでリサイクル。				
東北でのリニアエコノミーから サーキュラーエコノミー移行が必要		東北でのサーキュラーエコノミーな 回収システムを実現				
セールスポイント(製造可能な精度/材質等)		問題点(課題)と対応方法				
①プラスチックや金属付きの部品などを引き取り、破砕・分離し、自動車製造向けに再利用される国内循環の流通にのせる。 ②車1台製造あたりの排出量(SCOPE3)を軽減。		2035年に向けて、プラスチック自体の素材分離や、分離精度の向上、処理量の拡大など、設備投資と技術確率が必要であり、市場を鑑みながら暫時対応予定である。				
開発進度						
(2026年1月 現在)						
試作/実験段階		無				
従来比較	コスト	質量	品質	生産性	作業性	その他(CO2発生)
	1000t輸送試算 48%削減					1000t輸送試算 87%削減
会社名		所在地				
ニッコー・ファインメック株式会社		岩手県一関市千厩町奥玉字天ヶ森75-6				
連絡先		URL				
部署名:ソリューション推進室		: https://www.nikkofm.co.jp/				
担当名: 柏原 淳		Tel No.: 0191-56-2601				
主要取引先		E-mail: info@nikkofm.co.jp				
トヨタ関連会社		海外対応				
		<input type="checkbox"/> 可 <input checked="" type="checkbox"/> 否		<input type="checkbox"/> 可 <input checked="" type="checkbox"/> 否		